

2014

11月号

念仏のこころに生きる生活を

高岡教区

# 教区報

## 高岡教区第十四次支援隊南相馬そば打ち報告

絶好の秋晴れにも恵まれ、

十月二十九～三十一日、教区災害救援活動専門委員会（織田隆夫委員長）の企画による第十四次支援隊が南相馬市（福島県）でそば打ちを行いました。この様子を飛鳥寛静災害救援活動専門委員会副委員長に報告いただきました。

昨年に引き続き、今回で教区の支援隊としては二回目となる福島県南相馬市へ総勢十一名でそば打ちボランティアに行ってきました。昨年と同じく、南相馬市鹿島区にある小池長沼仮設住宅と高岡教区に縁の深い勝縁寺さまを訪れ、避難生活を送っておられるみなさま



に富山そば研究会のみなさんが中心となって、富山のひきたて、打ちたて、茹でたてのそばを召し上がっていただきました。

暖かな陽気でしたので、そばのおいしさをよりおいしく味わっていただけ「ぶっかけそば」にしました。茹でるお湯は集会場の前で大きな鍋に沸かし、台所で水切り、盛りつけ、そして集会場内ですっきりと召し上がっていただきました。

お話をうかがっていると、この仮設住宅で亡くなられた方が数日後に発見されたことや、除染活動は去年よりなされているけれど、放射線量は下がらず、帰ることができない状況が続いていて、先行きが見えない不安が去年と相変わらず続いている、など、にこやかな笑顔のなか

にどうすることも出来ないもどかしさを抱えておられることが伝わってきました。また、炊き出しのボランティアが少なくなっていること、人間関係が複雑になっていることで被災者の皆さんがいがいみ合う状況が生まれていることなど、お聞きするだけで、どのように現状を改善するのか分からない様子でした。毎年訪れるたびに状況が好転しているのではなく、問題が複雑化していると感じました。夜は高岡市下麻生の最圓寺さんから約二〇〇年前に相馬へ移民された勝縁寺さ



ら、おそばとお酒を通して親睦を深めました。

帰り道、通行制限が解除された国道六号線を南下し、福島第一原発の見える双葉町、大熊町を通過して、常磐自動車道を経由して帰路に着きました。持参した放射線測定器は、「ここから帰還困難区」と表示された双葉町に入った途端、数値が急に上がり、大熊町では、瞬間的に車内で7μSv/時（高岡では〇・1μSv/時）を示しました。交差点や各家の入口には、バリケードが設置され、「野生化した動物に注意」の看板が。写真や映像で見たことのある光景があちこちにあり、原発災害の変わらぬ大きさを改めて実感させられました。

んにお邪魔し、近所の仮設住宅にお住まいの小高区の光慶寺と原町の常福寺のご門徒さんたちと交流。温かい歓待をうけなが

# 仏壮二二〇〇人が博多に結集

十月二十五日

第二十一回全国仏壮大会

十月二十五

日(土)、専如

ご門主ご臨席

のもと、第二

十一回全国仏

教壮年大会が

第五連区福岡

教区担当で開

催され、九州

地区を中心に

全国各地から

約二二〇〇人

の仏教壮年が

結集した。ま

た、前日にはご門主を招いてのレセプションが開催さ



今回の大会には二十四日から二十六日の日程で、高岡教区から教務所長・担当者を含め十一名が参加。今大会の閉会式では、次期開催教区として東北教区仏壮連盟理事長が「復興の現状を直接見ていただく機会にしたい」と挨拶し閉会した。

全国仏壮大会は三年に一度開催されることになっ

ている。

## 高岡会館報恩講お初夜「親鸞聖人を語る夕べ」

期日 11月25日(火) 午後7時～9時 午後6時より「うどん」のお齋があります

内容 第1部 音楽法要(宗祖讃仰作法)

第2部 講演 テーマ 「親鸞聖人のご生涯に学ぶ」

ご講師 津山玄亮氏(小矢部市願称寺住職)

(詳しくは同封のチラシをご覧ください。)

音楽法要への参加者を募集しています。

合唱活動の経験、並びに性別、年齢は問いません。どなたでもご参加頂けます。11月13日(木)午後7時より会館にて練習会を行いますのでどうぞご参加下さい。

## 西本願寺高岡会館 報恩講法要のご案内

下記の通り高岡会館の報恩講を勤めます。お誘いあわせてお参りください。

日時：11月26日(水) 日中 午前10時・速夜 午後1時半

布教：布教 栗山宣雄師(南砺市本福寺住職)

講題：『虚しきは道標なき人生』

お昼にお齋(お弁当)を準備しております。午前・午後あわせてお参りください。

## 『広島県を中心とする八月豪雨災害義援金』のご報告(最終)

8月中旬に発生いたしました広島県を中心とする豪雨災害に際し、義援金を募集しましたところ、125か寺・団体50単位会・有志3名より計1,519,868円をお預かりいたしました。皆様の暖かいご協力に厚く御礼申し上げますとともに、10月31日をもって『広島県を中心とする8月豪雨災害義援金』の募集を締め切りいたしましたことを申し添えます。

また、義援金の送付先につきましては、かねてご報告の通り、特に被害が甚大であった安芸教区の「広島市八・二〇豪雨災害義援金」口座に全額を送金いたしましたことをご報告申し上げます。ご協力ありがとうございました。

## 御同朋の社会をめざす運動のコーナー

### 「御同朋の社会をめざす運動」(実践運動)

#### 骨子案 に関する報告書

本年は宗派の「御同朋の社会をめざす運動」が始まってから3年目であり、重点プロジェクト基本計画の最終年度にあたります。現在、次年度からの計画について、骨子案（別紙参照）が示されていますが、宗派よりこの内容について各教区からの意見を求められています。高岡教区では、予め全組・教区委員会全委員に「意見・提言」の依頼を行い、最終的に教区委員会常任委員会にて集約を行い、下記の内容にて十一月十日付けで総局宛に報告書を提出致しましたので、ここにその内容について報告させていただきます。

#### 一・総合基本計画について

骨子案は全体的に抽象的表現に終始している。特に門徒委員からは「解りにくい」「上から目線」との意見が寄せられている。

また、以下の点から、基幹運動の成果の継承と課題克服を目指した内容になっていないと判断する。

一、「①基幹運動と実践運動に共有された精神」にある「先人は（中略）み教えをまもりひろめていこうと努めてこられた」とあるが、これは「親鸞聖人の教えと生き方に反し、戦争に協力し、差別を温存助長してきた私と教団の現実から出発する」という基幹運動の精神に反する。

二、「同」②にある「互いに支え合って、苦しみや悲しみの世界を生き抜いていくこと」が「念仏者のあり方」なのか？この様な理解は「世の中の不合理や間違いに対して意見を言わず反対もしない」という「現状肯定」の姿勢が生み出す、真俗二諦ではないか？

三、多用される「苦悩をともに」という表現には、これまで部落差別や女性差別、「障害」者差別、ハンセン病差別など、教団が苦悩を強いてきた歴史への視点が欠如しているのではないか？

四、特に門信徒においては「宗門の基幹運動推進にかかる総括について」の内容がほとんど周知されていない。「門信徒共同参画」は基幹運動の課題でしたが、門信徒に共通理解を得ていない「総括」に依拠した計画が「基幹運動の成果を継承した」とのとは捉えられない。

これらの点から、基幹運動を継承した計画とは認められず、また名称変更の理由としても納得を得られたとは言えない。

本「骨子案」は総じて、現代社会の認識と課題が抽象的で過去と現状の認識が提示されておらず、教団の体制維持を第一義とした内容としか受けとれない。

#### 二・総合テーマについて

『キャッチコピー』的で、より多くの人々にわかりやすいテーマとはいえない」との意見が多く（一一組より）、結果として、各人による勝手なイメージしか生まないものになっていると判断する。

また、「絆」という用語は、しがらみ、呪縛、束縛の意味で使われていた。「人と人の結びつき、支え合いや助け合い」を指す近年の用例のみに依拠するのは浅薄であり、この言葉を使用する必要性は無いものと判断する。

同様に、「逆縁」や「ご縁」によって人を殺すこともある「ことを考慮しない通俗的「ご縁」の使用・強調は、根本教理たる「因縁生起」の誤解に繋がり、不適切。これらの用語に関して真宗教学より深く検討して使われているとは思わず、見直すべき。説明に「ご縁」という言葉が運動の中で定着してきた実績」があるとの認識は、何に基づくものか。そのような実績があるとは、とても思えない。

#### 三・重点プロジェクトについて

宗教を名乗った「ただの社会貢献活動」としか映らない。「変化する時代状況を踏まえ、社会への具体的な貢献」は単に社会の流れに沿って教団をPRする迎合行為。本来、教団における社会活動とは、宗祖の生き方に基つき、同朋精神を軸として社会に提言や誤りを糾す行動を起こしていくことであるはず。（七組より同様の意見）

#### 四・重点プロジェクトの推進期間について

組長等の任期と同じく四年が望ましい（七組より同意見）


#### 五・その他（特記事項）

・社会が大きく変化し「格差」や「貧困」がより深刻な課題になっていくなかで、近年の教団内での財界人や医師など組織作りは「強者・富者に寄り添う」姿となって映る。教団が、何を課題として、内外にどのような方向性を示し、運動を進めようとするのか、その真価が問われている。

・かつての基幹運動では、基本となる柱となるものがあつたと思われる。それは「反差別」であり「非戦平和」だったと思われる。そして、社会にある様々な問題に向き合う時も、その「反差別」「非戦平和」という柱をしっかりと持って向き合っていたと思われる。しかし、今の実践運動では、その柱となるモノがはつきりしていない。その為に現場では「何をすればいいか、わからない」とか「現場まかせ」という声が聞かれる。また、柱となるモノがない故に、所謂「何でもあり」な状態にあるのも否定できない。「社会に貢献できるなら何でも良いですよ」というのは危険であり、「反差別」「非戦平和」という柱がなければ、「世の中の不条理を我慢してしのぎましょう」という運動に陥ってしまうのではないかと、そして、それはかつての過ちを再び犯してしまう事になるのではないだろうか？



これからの日程 ( 1 1 / 2 0 ~ 1 2 / 2 0 )

11月		
20	音楽法要習礼	
21	福光教堂報恩講	
22	中仏生のつどい	全国門徒総追悼法要 ( ~ 2 3 ・ 本山 )
25	親鸞聖人を語る夕べ	
26	会館報恩講 長寿苑ビハーラ活動	
27	人事協議会	
29	中仏生のつどい	
12月		
1	第2回ビハーラ研修会	
3	雨晴苑ビハーラ活動 仏婦執行部会	
4	仏壮理事会・忘年会	
8	仏婦常任委・単位会長会議 仏婦ダーナ募金集金日 清光理事・評議員会	
9	教区コーラス練習日	講社連盟もち米進納 ( ~ 1 0 ・ 本山 )
11		
12	仏婦教材委員会 水波組聞法のつどい	
14	常例法座	
19	組長会	
20	仏の子どものつどい	

ラジオ放送 ~ 西本願寺の時間 ~

『みほとけとともに』

北日本放送 ( K N B ) ・ 7 3 8 k H z .  
毎週土曜日 ( 本山制作 ) 午前 6:15 ~ 6:25  
第 2 ・ 4 日曜日 ( 富山・高岡制作 ) 午前 6:00 ~ 6:10

11 / 15 ( 土 ) : 荻 隆宣 氏 ( 山口県・浄土寺 )

「よく思われたい鑑」

11 / 22 ( 土 ) : 荻 隆宣 氏 ( 山口県・浄土寺 )

「お念仏しながら生活する」

11 / 23 ( 日 ) : 未 定 ( 富山教区 )

11 / 29 ( 土 ) : 荻 隆宣 氏 ( 山口県・浄土寺 )

「本当に出会う」

12 / 6 ( 土 ) : 葛野 洋明 氏 ( 龍谷大学教授 )

「未 定」

12 / 13 ( 土 ) : 葛野 洋明 氏 ( 龍谷大学教授 )

「未 定」

12 / 14 ( 日 ) : 未 定 ( 高岡教区 )

【西本願寺高岡会館12月の常例法座】

ご講師: 林 要昭 師

( 砺波組・明覚寺 )

ご講題: 『浄土真宗が選びとったもの』

午後 1 時 2 0 分頃からビデオ上映、2 時から  
お正信偈六首引のお勤めです。どうぞお誘い  
あわせてお参りください。

お知らせ

『法輪せんべい』販売について

お茶菓子やご法事・ご法座の折のお扱いにいかがでしょうか。お申し込み先は下記のとおり。

FAX. でのお申し込みも承ります。どうぞご利用下さい。

一袋二枚入りで価格は次の通り

一袋二枚入りで価格は次の通り

・特大箱 ( 175 袋 ) 8 , 3 0 0 円

・大 箱 ( 36 袋 ) 2 , 3 0 0 円

・1 組 ( 10 袋 ) 5 0 0 円

お申込み先は・・・〒933 - 0003 高岡市能町 1 2 9 8

耳浦 康真 ( 本誓寺 ) Tel. & Fax. ( 0766 ) 23 - 9822

編集後記

今年に入りガソリンをはじめとした生活必需品の価格が、上昇しています。円安が原因ですが、ここ数日間でも急激に進んでいます。しかし、すべての物が上がったわけではなく、今年の新米価格は昨年比べて値段が下がっているようです。

あらゆる物が上がっている中で、主食である米の価格が下がるのは大変良いことのように見えますが、実際はどうなのでしょう。価格が下がっていると、米作りをはじめとした農業を生業とする方の生活が厳しくなり、今後ますます農家が減っていくのでは、と思います。

富山県は農業が盛んな県のひとつですが、赤字を理由に農業を辞められた方も多くはないでしょうか。社会状況が急激に変わっていく中、私たちが何気なく食べていたおいしい米が食べられなくなることがないようにつてほしいと、食欲の秋だと浮かれながらも米をあまり食べなくなってしまうっている自分に言い聞かせたいと思います。